

リーディングプロジェクトの方向性

本資料の性格

- 改定計画に位置付ける具体的な施策は、次回の懇談会で提示する予定です。
- 施策の中でも、計画期間中に特に優先的に取り組む「リーディングプロジェクト」については、次回の懇談会に向けて、庁内でも重点的に議論を行い、具体的な取組内容を決めていく必要があると考えてます。
- 本資料は、リーディングプロジェクトの考え方を、皆様に先行して提示し、意見をいただいた上で、今後具体的な内容を定めていくためのものです。

リーディングプロジェクトとは

- 第3次改定計画は、緑の多様な機能の発揮を通じて、スーパースマートシティの実現に貢献していくことを目指すものであり、人口減少・高齢化が進み、緑の担い手が不足する中で、緑が必要な機能を発揮していくためには、多くの市民等が緑のまちづくりに関わっていくことが求められる。
- より多くの市民から緑を生かしたまちづくりへの賛同を得て、多くの市民等が具体的な取組みを実践するため、緑の保全・活用・創出が、魅力的で暮らしやすい宇都宮市の形成につながることを市民等に伝えていくことが重要と考える。
- 第3次改定計画では、緑によってまちが変化したことを明確に市民に伝えるとともに、目に見える成果をあげて多くの市民の機運を高めるため、優先的に取り組む（各施策を先導する＝リーディング）施策としてリーディングプロジェクトを設定する。

《基本方針》

基本方針①

宇都宮市を形づくるみどりを継承する

想定する関連施策： 山林の保全, 農地の保全, 都市緑地の保全
歴史的緑の保全活用 等

基本方針②

みどりをまちの魅力につなげる

想定する関連施策： 公園整備, 施設緑化 等

基本方針③

みどりを楽しみ、愛着を育む

想定する関連施策： 公民連携, 市民協働, 普及啓発 等

《リーディングプロジェクト》

リーディング
プロジェクト

《リーディングプロジェクトがもたらす効果》

緑によるまちの変化を明確に伝える

市民等からの賛同、実践

緑の多様な機能の発揮によるSSCの実現

リーディングプロジェクトの全体像

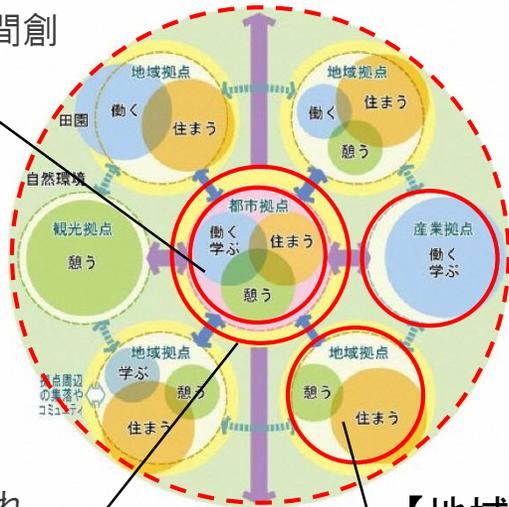
- 今後、SSCの実現に向けた様々な取組が、市内で展開されていく。都市計画の分野では、ネットワーク型コンパクトシティを推進することで、都市機能が集積する都市拠点や、自然に近く緑と身近に触れあえるポテンシャルを有する地域拠点が形成され、市民生活の中心的な空間となっていく。
- 緑によってまちが変化したことを効果的に市民に伝えるには、市民生活の中心となる都市拠点、地域拠点の魅力を、緑によって高めていくことが重要と考える。

<プロジェクトの展開空間イメージ>

緑によってまちが変化したことが市民に伝わる効果的な空間として、都市拠点、地域拠点及び拠点の周縁部が重要

【都市拠点】

賑わい創出、憩い空間創出のための緑の活用



【拠点周縁部】

都市住民が自然と触れ合える空間としての農地や樹林地の保全・活用

【地域拠点】

快適な居住環境のための緑化、地域コミュニティ形成の拠点となるオープンスペース整備

<リーディングプロジェクト候補>

プロジェクトⅠ 緑による中心市街地の魅力化

都市拠点において展開するプロジェクト；
多くの市民、来街者にとって、市の顔となる中心市街地の魅力を緑によって高めていく取組群

プロジェクトⅡ 地域特性やニーズに応じた公園機能の充実化

都市拠点・地域拠点において展開するプロジェクト；
市民の生活空間が広がる地域拠点のなかで、みどりの重要な拠点である公園の質を高めていく取組群

プロジェクトⅢ みどりとのふれあいの場としての農地・樹林地の活用

拠点周縁部において展開するプロジェクト；
都市活動を行いながら自然とのふれあいを享受できる本市の魅力を高めていくため、拠点の周辺に位置するみどりを活かしていく取組群

プロジェクトⅠ 緑による中心市街地の魅力化

【取組の考え方】

- ・潤いあるみどりの景観や、人が滞留できるみどりの空間は、まちの賑わいや印象を高めることにつながります。多くの人が訪れる中心市街地の魅力を高めることで、快適な都市生活を創出し、宇都宮市が選ばれるまちとなることを目指します。
- ・郊外部に比べて緑化余地が限られるなかで、まちの印象を高めることにつながるよう、街路樹、沿道敷地、オープンスペースなど、様々なみどりを効果的に活用する取組を位置付けていきます。

■具体的な取組のイメージ（関連する既存取組や他市事例等）

視覚に訴える緑化推進の取組の拡充



シンボルロードの
ハンギングバスケット

居心地がよく歩きたくなる空間形成



沿線の街路樹や芝生広場など街
なかの緑空間の創出(イメージ)

防災・減災に資する緑の創出



屋上緑化等の推進(宇都宮駅東口交流拠点施設)



釜川プロムナード



交差点に設置されたレインガーデンの事例(京都市)

プロジェクトII 地域特性とニーズに応じた公園機能の充実化

【取組の考え方】

- まちのなかで公園は、地域住民の交流や憩いの場として中心的な役割を担っています。地域によって様々なニーズがあるなか、地域ごとのニーズに応じて機能を高めていくことで、暮らしやすいまちの形成につなげていくことを目指します。
- 周辺地域の状況を踏まえて、地域の魅力を高める機能を公園に付加していくための民間活力の活用や、防災機能を強化など、質を高める取組みを位置付けていきます。さらに公園の新規整備や再整備を効果的に実施するための戦略も検討していきます。

■具体的な取組のイメージ（関連する既存取組や他市事例等）

P-PFIによる公園機能充実



山林内の公園の魅力化



公園内に設置された民間施設(カフェ、ライフスタジオなど)(久留米市)

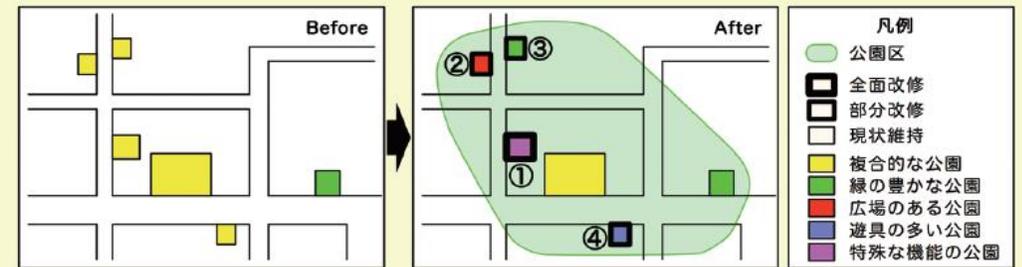
公園緑地等の防災機能の強化 (延焼防止, 総合治水・雨水対策, 脱炭素(樹木の健全化)等)



公園のグラウンドを活用した雨水貯留
(オンサイト貯留)

点在する公園群の整理 機能の分担, 機能の特化等

■コミュニティレベルの公園区によるリニューアルイメージ



同じような小規模公園が集まった公園区内で、機能バランスを保ちながら、個々のリニューアルを考えます。必要でなくなった施設を取り除くことにより生み出した空間を、機能の向上や新たな魅力の創出に活用します。

- ①特殊な機能を有する公園への全面改修
- ②古い遊具を撤去し広場を整備
- ③古い遊具を撤去し花木を補植
- ④大型遊具の導入で子ども遊びに特化

(その他)

- ・公園活性化協議会設置による、地域住民等による公園利用ルール作り
- ・ICT技術を活用した維持管理, SNSによる魅力発信 等

プロジェクトIII みどりとのふれあいの場としての農地・樹林地の活用

【取組の考え方】

- 拠点の周縁部に位置するまとまった樹林地や点在する農地は、拠点で生活する住民が、都市にない自然環境とふれあうことのできるポテンシャルを有しています。周縁部のみどりを住民が利用する空間として活用することで、みどりあるライフスタイルの実現と、多様な機能をもつ緑の保全を目指します。
- 樹林地や農地を様々な人の活動空間として、活用していくための取組を位置付けていきます。

■具体的な取組のイメージ（関連する既存取組や他市事例等）

公民連携による樹林地の保全



戸祭山緑地での市民団体と民間企業の連携による保全活動（生き物つながり活性化事業）

生産緑地制度による市街化区域内的の農地の保全



良好な住環境の形成に寄与（東京都区）

多世代が農作業を通じて交流する空間としての農地活用



農業体験として活用



長岡樹林地での環境学習



良好な住環境の形成に寄与（東京都N区）



災害時の避難場所としての活用